

ドングリと担任

昨日の下校後に、二年B組担任のO教諭が、何か小さな丸いものをいくつか手のひらに載せ、にこにこしながら話しかけてきました。

「S・Sさんが作ったんです！校長先生のもありますよ！」目に映ったものはドングリでした。大きさがそろったドングリに顔が書いてありました。われわれ職員の顔をSさんが特徴を捉えて描いてくれたとのこと。「これは〇〇先生です！これは眼鏡をかけているから△△先生です！」と、O教諭はうれしそうに見せてくれました。

私のドングリには、大きなヘタ（帽子の部分です。）がついていました。「おつ、髪の毛を増やしてくれたんだね」と一瞬うれしく思いましたが、どうやら帽子をかぶっている私だそうです。「作業をしているときの私を見ていてくれるのかな」と思うと、髪の毛を増やしてくれた以上にうれしくなりました。

さすが、昨年度小学校の低学年を担当していたO教諭です。生徒たちの感性やよさを大切にして接しています。中学生の「半分大人で半分子ども」の「子ども」の部分に目ざとく気付き、自分も楽しんでいるようでした。彼女はその楽しみを、今朝の朝の会で学級に伝えようとしていました。

今朝、順番に朝の会を見て回っていた時のことです。O教諭が教室の備え付けのテレビとタブレットをつなぎようとしていました。「朝から何を映すのだろう」と思った私は、しばらく教室に滞在しました。

画面に映し出されたのは、昨日のドングリたちでした。いきなりドングリが目飛び込んできた生徒たちは意外に思ったでしょう。あつという間に雰囲気が和みました。画面の中のドングリを見て、だれの顔を当てる生徒たちの顔には、自然と笑みが浮かびました。似顔絵ドングリに心を動かし、周囲の者に見せて回る担任。わざわざドングリの写真を撮り、生徒たちに見せようと手間を惜しまない担任。高いところに登ってテレビとタブレットをつなぎ、朝の会の演出をしようとする担任……こんな担任を二年B組の生徒たちはどう思ったのでしょうか。

わざわざ数分の「先生の話」のために、手間と時間をかけることを当たり前前に考えてはいけません。楽しい話題を提供してくれた担任を、客観的に評価できる大人の部分を生徒たちにはもち合わせてほしいと思います。O教諭は大人ですが、子ども部分もあわせもつ、生徒たちが身近に感じる存在のようです。次はどんなお楽しみ映像が準備されるのかな。ワクワクします！

